

「研究者の歩きかた」セミナーシリーズ #1
学振申請応援セミナー①

申請の基本 「なぜ書くか？なにを書くか？」

日本学術振興会特別研究員制度 準備説明会

2020年2月19日（水）13:30～14:30
附属図書館3Fライブラリーホール

主催：学術研究支援室（KURA）
次世代研究者支援チーム

1

はじめに

特別研究員への応募は
研究者としてのキャリアを計画する
大切な一歩です

2

2

今日の内容

1. 日本学術振興会特別研究員制度（学振）の概要
2. 頭に入れておくべきこと—審査について
3. 申請書の準備
 - なにをどう書く？
 - どうやって書く？
 - いつなにをする？
4. なぜ学振に申請することが重要なのか？

3

3

日本学術振興会特別研究員制度(学振)の概要

— DC の場合 —

誰が

日本学術振興会 (JSPS) が
(文部科学省の外郭団体)

人材育成が目的です

何のために

日本の学術研究の将来を担う研究者を育成するために

誰に

博士後期課程に進学する・した人に

何をする

自由な発想に基づく研究に専念できるように
研究奨励金 (生活費) と研究費を給付する

4

4

申請資格・締切・支給額等（2021年度採択分） SPDの新規募集は停止

	DC1	DC2	PD	RPD
申請時点の学年 採択時の条件	M2	D1以上	D3以上 【採用時】 博士号取得後 5年未満	出産・育児で 2013/10/1 ～2020/3/31に 3ヶ月以上研究 活動を中断した 【採用時】 博士号取得済
事務チェックメット	5月中旬	5月中旬	5月中旬	4月中旬
国籍	不問	不問	日本人 永住権保持者	日本人 永住権保持者
採用期間	3年	2年	3年	3年
研究奨励金 (生活費) 月額	20万円	20万円	36.2万円	36.2万円
特別研究員奨励費 (研究費) 年額	～150万円	～150万円	～150万円	～150万円
科研費申請資格	×	×	○	○

5

<p>■ 公募情報詳細 JSPSのウェブサイト 特別研究員のページ https://www.jsps.go.jp/j-pd/</p> <p>■ 学内締切や支援情報 京都大学のウェブサイト 日本学術振興会特別研究員のページ http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research/recruit/scholar/jsps</p> <p>■ 制度説明会・申請対策説明会 2020年3月9日（月） 主催：研究推進部研究推進課研究助成掛</p> <p>■ 研究計画書の基本「どう書くか？」 2020年3月17日（火） 主催：学術研究支援室（KURA）次世代研究者支援チーム</p>
--

6

頭に入れておくべきこと—審査について

—審査のステップ—

- ◆ **書面審査** 6人の専門委員それぞれが評点をつける
 - ① **研究者としての資質** 5段階評価 ←DCで重視
 - ② **着想およびオリジナリティ** 5段階評価
 - ③ **研究計画遂行能力** 5段階評価
 - 5: 非常に優れている 4: 優れている 3: 良好である
 - 2: 普通である 1: 見劣りする
- ⇒ **研究者としての資質・能力を総合的に判断** (相対評価)
 - 5: 採用を強く推奨する 4: 採用を推奨する 3: 採用してもよい
 - 2: 採用に躊躇する 1: 採用を推奨しない
- ◆ **書面合議審査** 9つの部会で書面審査の評点に基づき選考
第一次採択内定者 面接候補者 不採択者
- ◆ **面接** (11月下旬～12月中旬) プレゼンと質疑応答

2021年度採択分の選考方法 7

7

— 審査方針 DCの場合 —

(すこし言葉を省略している部分があります)

- (1) 学術の将来を担う**優れた研究者**となることが十分期待できること。
- (2) **研究課題設定に至る背景**が示されており、かつその**着想**が優れていること。
研究の方法に**オリジナリティ**があり、**研究課題の今後の展望**が示されていること。
- (3) 研究を**遂行する能力**が優れていること。

PDについては, 新たな研究環境に身を置くなどの項目が加わります。

2021年度採択分の選考方法

8

8

—審査区分について—

複数の小区分のいずれがよいかで迷う場合

- ・ [指導教員や先輩](#)に相談する
- ・ [過去の採択者一覧](#)でそれぞれの小区分に含まれる研究課題名をみてる

小区分（と上位区分）を決めたら

- ・ [その分野で重視される文脈](#)に乗せて書く
- ・ 書面審査も面接も、選んだ小区分よりも [広い範囲の審査委員](#)が含まれていることを念頭にわかりやすく書く、話す

9

9

—審査する人について—

中堅以上の研究者です ということは—

[老眼](#)がはじまっているかもしれません

⇒ [11ポイント](#)で作成することをお勧めします

他にもたくさん仕事を抱えています

⇒ [さっと読んでわかるように](#)書くことが重要です

[専門分野](#)は少し離れているかもしれません

⇒ [研究の意義や魅力を明示的に](#)書くことが重要です

[理屈っぽい](#)でしょう

⇒ [論理的に、根拠を示しながら](#)書くことが重要です

10

10

申請書の準備 なにをどう書く？

－ ワードで作成する項目 DCの場合 －

■ これまでの研究状況

■ これからの研究計画

- (1) 研究の背景
- (2) 研究目的・内容
- (3) 研究の特色・独創的な点
- (4) 研究計画
- (5) 人権の保護及び法令等の遵守への対応

■ 研究遂行能力

■ 研究者を志望する動機, 目指す研究者像, アピールポイント等

11

11

■ これまでの研究状況

- ① 研究の背景 問題点 解決方策 研究目的 研究方法
特色と独創的な点 (重要文献)
- ② 研究経過 得られた結果 (論文・学会発表)

すでに材料は揃っています (+5月の提出まで)

自分が何をしてきたのか思い出してみましよう

- ・ **なにが知りたくて**大学院に進学したのか
- ・ **どんな文献**を読んだのか
- ・ **なにをテーマ**を選んだのか
- ・ **なにを研究目的**としたのか
- ・ **どんな調査/実験/分析**をしたのか
- ・ **どんな結果**が得られたのか
- ・ **学会発表**がある場合, どの学会で何を発表したのか
- ・ **論文発表**がある場合, どの雑誌/本に何を発表したのか
- ・ **どんな困難**に直面し, どうやって乗り越えたのか

12

12

■ これからの研究計画

(1) 研究の背景

背景 問題点 解決すべき点 着想に至った経緯 (参考文献)

(2) 研究目的・内容

①研究目的 研究方法 研究内容 ②計画～何をどこまで明らかに
③研究室の研究における担当部分 など

(3) 研究の特色・独創的な点

①先行研究との比較 ②研究の位置づけと意義
③インパクトと将来の見通し

(4) 研究計画

これまでの研究との切り分けー継続性と発展性

夢を膨らませましょう, しかも着実に

- ・ **テーマ**は共通か, 発展させるか
- ・ これまでにここまでできた, 次の**研究目的**は…
- ・ 新しい**視点/調査/実験/分析**はなにか
- ・ どんな**プロセス**で成果を出していく見通しか

13

13

■ これからの研究計画

考えが行き詰ったときにはー

- ・ 関連しそうな**文献を読む**
限られた材料から論理的に考えるだけでは限界があります
研究が進むのは**先行研究の積み重ね**があるからです
いろんなものに触れて思考を巡らせてこそ**ひらめき**が!
- ・ 指導教員/先輩/友人など**人と話す**
話していると**頭が整理**されます
違う視点からアドバイスがもらえるかもしれません!

14

14

■ 研究遂行能力

これまでの研究活動に基づいて、専門的知識があることや調査分析などの技術があることを説明する。根拠となる業績も引用する。

- | | |
|-----------|-------------------|
| (1)論文, 著書 | (2)解説, 総説 |
| (3)国際会議発表 | (4)国内学会・シンポジウム等発表 |
| (5)特許等 | (6)その他(受賞歴等) |

これからでも遅くありません！

- ・ **学会発表**に申込みましょう
論文よりは**すみやかに業績**が得られるうえに
研究内容を**わかりやすく人に伝える**練習になります
専門分野のコミュニティに貢献しようとしていること,
ネットワークを作ろうとしていることも示せます
- ・ **論文**を書きましょう
学振に限らず,**研究者として認められる**ために必要です
書く過程で**知識や考えが深まり**,申請書に生かれます
面接を受けることになった時に採録が決定しているかも

15

15

■ 研究者を志望する動機, 目指す研究者像, アピールポイント等

研究者を志望する動機 目指す研究者像 アピールポイント
「我が国の学術研究の将来を担う創造性に富んだ研究者の養成・確保に資する」という制度の目的に即して

ポジティブな側面を見よう！

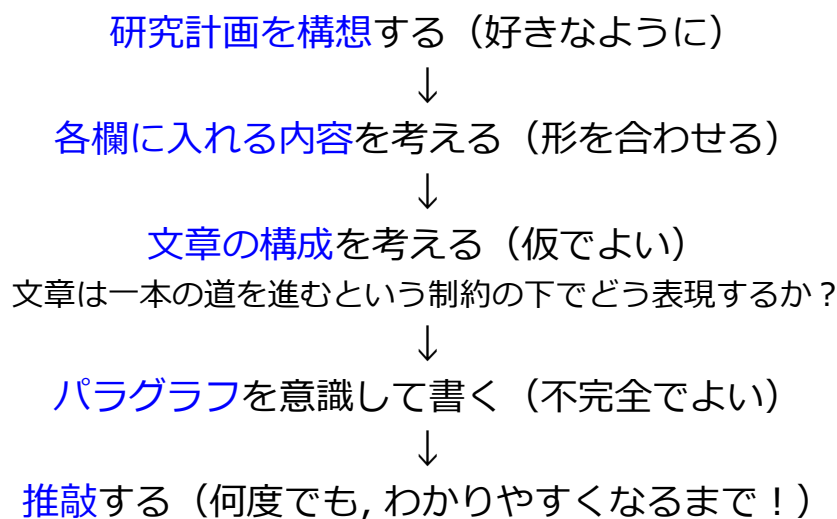
得意なことを研究内容と結びつけて, 具体的に,
根拠を示しながらアピールしましょう たとえばー

- ・ **発想力**…こんな着想を得ました
- ・ **理解力**…こんな先行研究から課題を抽出しました
- ・ **観察力**…こんなことを観察できました
- ・ **情報収集能力**…こんなデータを集めました
- ・ **分析能力**…こんな分析を行いました
- ・ **研究をまとめる能力**…こんな成果をまとめました
- ・ **コミュニケーション能力**…研究者/調査対象者とこんなコミュニケーションをとっています
- ・ **企画・運営能力**…こんな研究会を企画・運営しました

16

16

申請書の準備 どうやって書く？



17

17

－ 基本的なストーリー展開 －

- 先行研究では……ということがわかっています。しかし、ここに……というギャップがあります。そのギャップを埋めることには……という意義があります。
- ……によりギャップを埋めることができるでしょう。私には……ができるのです！
- そこで……を目的として研究を行います/行いました。具体的な研究方法は……です。
- その結果……がわかると予想されます/わかりました。それは学術や社会に……というインパクト（波及効果）を与えると期待されます/与えました。
- 将来的には……することが必要でしょう。

18

18

— 申請書作成のヒント集 —

- **申請書の形式を整える技術**（別紙）
- **申請書閲覧**（3～5月←支援情報をチェック）
- **英語のロジックで書く**
「京都大学からはじめる 研究者の歩きかた」
<https://ecr.research.kyoto-u.ac.jp/>
「次世代フォーラム」の記事にあります
- **オックスフォードから見た<ニッポンの教育> 社会学的アプローチ**
<https://ocw.Kyoto-u.ac.jp/ja/opencourse/213/video>
- **研究の社会的インパクトとは？**
<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/act/524>
（資料へのリンクあり）

19

19

申請書の準備 いつなにをする？

2月	募集要項/申請書作成要領/申請書様式を確認する これまでの研究/研究計画を考え始める
2月頃	指導教員/受入教員に申請の意思を伝える 評価書を依頼しておく 部局事務に電子申請システムのID発行を依頼する
2～3月	初稿を書く
3～5月頃	推敲する/指導教員や先輩などに読んでもらう
4月頃	電子申請システムでWeb直接入力部分を作成する システム上で評価書の依頼を行う
5月中旬	申請内容ファイルをアップロード・提出する 事務チェックを受ける
5月下旬	事務チェックの返却を受ける・最終提出する

20

20

なぜ学振に申請することが重要なのか？

今の状態

目の前の研究でいっぱいいっぱいでも、就職のことはとても気がかり



何をしたらいい？



到達すべき状態

どんなもの？

21

21

なぜ学振に申請することが重要なのか？

今の状態

目の前の研究でいっぱいいっぱいでも、就職のことはとても気がかり



何をしたらいい？



到達すべき状態

どんなもの？

これを成し遂げるのが学振の申請

研究を広い文脈に位置づける

道筋を立てる

目標を定める



22

22

職業としての研究者に必要な能力の例

vitae (<https://www.vitae.ac.uk/>) RDF から抜粋しKURAが承諾を得て行った翻案

専門分野の知識を身に付ける

Transferable Skills Workshop #1 ver.2.3

・#2 ver.4 から抜粋

助成情報に精通し, 研究資金を調達する

好ましいワークライフバランスを築く

他者と協働し, 生産的な関係を築く

人脈を広げる, 維持する, 先導する

グローバルな文脈で自らの役割を認識し, 国際的に貢献する

研究不正に関するルールを理解し, 適切に行動する

独創的に思考し, 理論的概念を発展させる

今後のキャリアを考え, マネージングする

忍耐強く, 早く立ち直る

自己の能力を省み, 改善策を見つける

効果的なプロジェクトマネージメントを行い, 着実に成果を出す

それぞれの個性と多様性を理解し, 平等に機会を与える

他者に影響を与え, 導く

 **Researcher Development Framework**

23

23

職業としての研究者に必要な能力を得るには…

たとえば—

グローバルな文脈で自らの役割を認識し, 国際的に貢献する

目標 (RDFより)

国内および国際レベルで
研究の背景を理解する

国際的なネットワークを
構築する

国際的な課題を周囲の研究
者やスタッフに教える

国内的国際的に行動計画を
示し, 政策に影響を与える

専門分野を超えて
文献を読み, 人と議論する

国際的な場で人と交流し,
交流を続ける

社会へのインパクトを意識
して行動する

やるべきこと

*vitae (<https://www.vitae.ac.uk/>)
RDF から抜粋しKURAが承諾を得て
行った翻案

Transferable Skills Workshop #1 ver.2.3

・#2 ver.4 から抜粋

24

24

たとえ, 採択されなかったとしても
学振の申請を通じて—

別の助成に応募する土台ができています
研究を進める工程が見えています
研究者になるために必要なことが見えています

25

25

さいごに

はじめは誰だって自信はありません。
もしくは「できないよ」って思います。
そこをだまし、だまし、頑張ってみる。
ちよつとずつ、今までできなかったことが
できるようになってきます。
がんばれ!

26

26